

2022年(令和4年)

登録電気工事基幹技能者 認定講習

試 験 問 題



一般社団法人 日本電設工業協会

●解答は 全て解答用紙に記入して下さい。

問題1 登録電気工事基幹技能者に期待される役割の記述で、**もっとも不適切なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 現場作業を効率的に行うための技能者の適切な配置、作業方法、作業手順等の構成
2. 現場代理人への現場状況に応じた施工方法等の提案、調整等
3. 生産グループ内の一般技能者への施工にかかわる指示、指導
4. 作業指示書の作成と説明・周知
5. 前工程、後工程に配慮した他の職長等との連絡調整

問題2 OJT教育実施時の指導方法で、上司が配慮すべきことの記述で、**もっとも不適切なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 目標等が部下の自己啓発の意欲を促すものであること。
2. 指示通りにやらせ部下の考えや工夫は結果の評価にはせず、マニュアル通りにできたかを評価すること。
3. 部下の成長する条件を考えること。
4. 知識の習得と体験の組合せを作ること。
5. 目標は仕事の難易度を踏まえ、段階的に目標を決めて個別にバックアップをすること。

問題3 工種別施工計画書（施工要領書）作成の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 一般的に常識的な事項については、省略する。
2. 施工要領書は、原則として一般的な工事のみ作成する。
3. 施工方法は図表等を主体とし、部分詳細図は省略する。
4. 標準施工となるべき性質から、作成したら改善は行わない。
5. 作成にあたっては、技術者が作成し、登録電気工事基幹技能者や職長などには伝達するだけで良い。

問題4 登録電気工事基幹技能者が行う事務管理の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 協力業者や他職との打合せ内容は、必ず打合せ議事録に残し、まとめて技術者に報告する。
2. 現場において、監理技術者を補佐するものを配置する場合は、その氏名及び保有資格内容を必ず施工体制台帳に記入する。
3. 作業員名簿のチェック時の留意点で、健康診断日は入所日から6ヶ月以内か確認が必要である。
4. 作業日報は、前日に翌日の作業内容と当該作業に対して安全対策をどのように行って作業するか記載し協力業者と協議するもので、当日の作業報告となる。
5. 再下請負通知書（変更届）は、二次下請負業者以降まとめて作成することができる。

問題5 電気工事士法の記述で、**誤っているもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 第一種電気工事士は、3年ごとに自家用電気工作物の保安に関する講習を受講する事が義務付けられている。
2. 第一種電気工事士は、500kW未満の自家用電気工作物（特種電気工事を除く）及び一般用電気工作物の工事に従事でき、第二種電気工事士は、一般用電気工作物の工事にのみ従事できる。
3. この法律は一般用電気工作物及び最大電力500kW未満の自家用電気工作物を対象としている。
4. 500kW未満の自家用電気工作物のうち、簡易なもの（簡易電気工事）についての資格としては、認定電気工事従事者がある。
5. 電気工事士には、第一種電気工事士及び第二種電気工事士があり、免状は都道府県知事から交付される。

問題6 バーチャート工程表の記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 横軸に各作業名を列記し、縦軸に暦日をとったものである。
2. 各作業の余裕時間が分からないため、工程上の問題点が分からない。
3. 各作業の所要日数、日程が分かりにくい。
4. 作成が簡単で各作業の現時点における進行状態がよく分かる。
5. 各作業に着手日と終了日の間を横線で結んで作業日程を表したものである。

問題7 資材管理における登録電気工事基幹技能者の役割の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 発注した資材の納入依頼書の照合、損傷の有無を確認する為に受入検査を実施する。また技術者の指示の下で検査のサポート、検査記録の作成及び写真撮影等を行う。
2. 現場に搬入された主要資材を必要箇所に設置するまでの間、資材の性能等を損ねることなく維持する為に、保管場所を決めて管理する。
3. 一般資材の受入検査を実施し、発注資材が間違っって納入された場合は一時保管し、差支え無いよう使用する。また、資材は常に在庫確認して資材不足による現場作業の遅延を防ぐ。
4. 技術者により作成された資材搬入計画書を確認し、現場状況等との不整合な箇所があれば現況に即した計画書となるよう提言する。
5. 現場全体の工程会議や朝礼等で、事前に現場全作業員に搬入計画を周知し、当日の立入禁止箇所や搬入の経路を説明して、不必要に危険箇所等へ立入る事を防ぐ。

問題8 年少者に関する労働基準法遵守事項の記述で、**正しいもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 児童は満18才に達した日以後の最初の3月31日が終了するまで、使用してはならない。
2. 満15才未満の年少者についてはその年齢を証明する戸籍証明書を事業場に備え付けなければならない。
3. 親権者又は後見人は、未成年者の賃金を代わって受け取ることができる。
4. 使用者は、満18才に満たない者を午後10時から午前5時までの間において使用してはならない。
5. 使用者は、満20才に満たない者に、動力によるクレーンの運転等の危険な業務や重量物を取扱う業務及び毒劇薬物等の有害な原材料を取り扱う業務並びに有害ガスを発散する場所等の有害な場所における業務に就かせてはならない。

問題9 工程内検査の記述で、**もっとも不適當なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 設計図書（施工図）及び機器承諾図等により適切に取付け施工されているかの確認をする。
2. 他の設備との取合いで、不備があっても引渡しまでに直せば良いので確認は行わなくて良い。
3. 絶縁測定等の試験結果が適切であったかの確認をする。
4. 点灯試験を行い設計図書（施工図）との回路が適切に施工されているか照合確認をする。
5. 各設備の機能が適正に動作しているか確認をする。

問題10 建設副産物の記述で、**もっとも適當なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 建設副産物の発生量を抑制するためには経済性を無視しなければならない。
2. 建設副産物は、安全でないものが多く、再利用は不可能である。
3. 現場においては、経費削減の為、管理型廃棄物を混合で捨てることを推奨している。
4. 建設リサイクル法によりリサイクルが義務付けられたのは、コンクリート塊、建設発生土等が有る。
5. 建設工事に伴い副次的に得られる物品が建設副産物である。

問題 1 1 登録電気工事基幹技能者に求められる倫理やコンプライアンスの記述で、**もっとも適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 作業員から二重天井内で、ジョイントボックス無しで接続したいと言われ工程が厳しかったのでジョイントボックス無しで施工するよう指示した。
2. スラブ上のスリーブ取付時に、開口を他職種と打合せをせずに行い、独自の判断で補強を指示した。
3. 自立の分電盤を固定しようとしたが、指定されたボルト径が、自分の経験から明らかに細いと感じたが施工図どおり指定されたボルト径で施工するよう指示した。
4. スラブ配管の施工において、配管の距離が長くまた曲がりが多すぎた。自分の経験からあとの通線が出来そうにないと感じたので、技術者にその旨を伝え相談した。
5. 4点支持の照明器具を作業員から重さ的に問題ないから2点吊りにしたいと言われ、重さ的に問題ないのであれば、2点吊りで施工するよう指示した。

問題 1 2 登録電気工事基幹技能者が行う原価管理の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 幹線系統工事（強電・弱電）は、建築業者と十分な打合せを行い、環境の良い状況で先行して施工することが大切である。
2. 建築の月間工程表を基に週間工程表の進捗度を確認し、予め作業員の配置人数と資材の搬入時期を予測し、早めに手を打っておくことがムダやムラの発生を防止する重要な管理項目である。
3. 手戻り工事を防止するためには、施工前に作業員と綿密な打合せを行い、承諾された施工図で作業させることである。
4. 手直し工事を防止するためには、指示ミス無くすことや、予め作業員の技能を把握し作業内容によって、人員を配置することが大切である。
5. 電線・ケーブル、配管材料については、建築工程の進捗状況により大きく変化する。そのため作業員と十分な打合せを行い、資材不足による手待ちロスが発生しないようにする。

問題 1 3 施工管理の記述で、**もっとも不適当なもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 施工管理とは、着工から完成引渡しまでの工事施工の計画をたて、それに基づき工程管理、品質管理、原価管理、安全管理、および環境管理などを行う。
2. 施工管理とは、工事施工の管理のことをさし、計画を除いたものである。
3. 施工管理の四大管理とは、品質管理・工程管理・原価管理・安全管理である。
4. 施工計画は、工程管理、品質管理、原価管理、安全管理、および環境管理を行うための基本となるものである。
5. 電気工事の施工にあたっては、関係法令に違反することなく、工期内に、顧客のニーズに応じた品質の良いものを、いかに低コストで造るかを考え、そして実行することが求められている。

問題 1 4 電気工事士法施行規則第 2 条において電気工事士でないとできない作業の記述で、**誤っているもの**を選び、その番号に○をつけなさい。

1. 電線相互を接続する作業。
2. 金属製のボックスを造営材その他の物件に取付ける作業。
3. 配電盤を造営材に取付ける作業。
4. 電圧 6 0 0 V を超えて使用する電気機器に電線を接続する作業。
5. 地中電線用の暗渠又は管を設置し、変更する工事。



問題 1 5 あなたが申込時において「実務経験証明書」の職長欄に「職長」と記載した工事の中で、職長の実務として実施してきた安全管理について、次の問いに答えなさい。

1) 工事名称

-----

2) 上記の工事で、具体的に実施した安全管理の事例を 4 つ述べなさい。

①

-----

②

-----

③

-----

④

-----

3) 上記の安全管理の事例で行った理由を、具体的にそれぞれ一つずつ述べなさい。

①

-----

②

-----

③

-----

④

-----

4) その安全管理を行ったことで、特に効果があった点を 2 つ述べなさい。

①

-----

②

-----

-----

# 2022年 登録電気工事基幹技能者 認定講習 修了試験問題解答と合格基準

一般社団法人 日本電設工業協会

## 登録電気工事基幹技能者 認定専門委員会

2022年 登録電気工事基幹技能者 認定講習は、(一社)日本電設工業協会の9支部及び4都道府県協会によって、13会場で開催され、講習終了後に修了試験が実施された。今年度の受講申込者は563名であり、そのうち受講(受験)者は、534名で内合格者は、528名(合格率98.9%)であった。

以下、2022年の修了試験問題の概要と解答及び合格基準を示す。

### 1 2022年 登録電気工事基幹技能者 認定講習 修了試験

#### 1 試験問題の内容と構成

##### 1) 出題基準

- ・ 職長として、施工現場で行った采配の記述 (小問題4問) 1問題
- ・ 認定講習内容及び読本からの出題、択一式 14問題

##### 2) 出題内容と構成

- ・ 問題 1 登録基幹技能者の期待する役割に関する問題
- ・ 問題 2 OJTの指導方法に関する問題
- ・ 問題 3 施工計画書に関する問題
- ・ 問題 4 事務管理に関する問題
- ・ 問題 5 電気工事士法に関する問題
- ・ 問題 6 工程表に関する問題
- ・ 問題 7 資材管理に関する問題
- ・ 問題 8 労働基準法遵守事項に関する問題
- ・ 問題 9 工程内検査に関する問題
- ・ 問題 10 建設副産物に関する問題
- ・ 問題 11 登録基幹技能者のコンプライアンスに関する問題
- ・ 問題 12 原価管理に関する問題
- ・ 問題 13 施工管理に関する問題
- ・ 問題 14 電気工事士法に関する問題
- ・ 問題 15 受講申込時の「実務経験証明書」の「職長欄」に職長と記載した工事で「安全管理」を記述する問題

#### 2 試験問題の正解と配点

	正解	配点
問題 1	4	5
問題 2	2	5
問題 3	1	5

問題 4	2	5
問題 5	1	5
問題 6	5	5
問題 7	3	5
問題 8	4	5
問題 9	2	5
問題 10	5	5
問題 11	4	5
問題 12	3	5
問題 13	2	5
問題 14	5	5
問題 15	—	30

### 3 具体的評価

#### 1) 択一問題の評価基準

- ①問題 1 から問題 14 は、1 問正解につき各 5 点とする。
- ②各問題の不正解と、1 問題で 2 つ以上の○印のついた解答は 0 点とする。

#### 2) 記述問題の評価基準

記述問題 15 は、受講申込時の実務経験証明書に記載された現場で「職長」としての業務内容の記述により判断する。

#### 3) 記述問題の配点と採点基準

##### ① 配点

問 1、問 4、・・・各 5 点、 問 2、問 3・・・各 10 点

##### ② 採点

問 1 において「実務経験証明書」の「職長欄」に職長と記載された工事において、職長の立場で行った業務内容を問う問題であるため工事名称が正しく書かれていることを基本とする。

従って、問 1 で「実務経験証明書」の「職長欄」に「職長」と書かれた工事名称が正確に記載された者には 5 点を、そうでない者には 0 点とする。問 2・問 3 は記載内容により 0～10 点とし、問 4 は 0～5 点を配点する。

また、問 1 を 5 点取得した者は、問 2 以降を記述内容により通常に採点を行うが、問 1 が 0 点の者は、配点の 1/2 を満点として採点する。

## II 登録電気工事基幹技能者 認定講習修了試験の合格基準

登録電気工事基幹技能者認定講習修了試験において、100 点満点で 60 点以上を取得した者を合格者とする。

以 上